

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671500639		
法人名	医療法人 清樹会		
事業所名	グループホーム碧		
所在地	徳島県板野郡藍住町徳命字新居須64-2		
自己評価作成日	平成28年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の生活歴や医療情報を共有し、事業所理念に即した「笑顔あふれる毎日を過ごすこと」を目標としている。職員や入居者様同士がふれあい、楽しみや喜びを感じられる環境の提供と、個々の能力に合わせた介護支援を行っている。そして、若年性認知症者の受け入れや看取り介護等、医療・介護の多様なニーズに対応できるような体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、閑静な住宅街に位置しており、周辺には同一法人の運営する医療機関や事業所がある。24時間連携の可能な医療連携体制を整備しており、利用者や家族の安心に繋がっている。職員は、利用者一人ひとりの希望や要望に応じて、買い物や近隣への散歩に出かけたり、季節の花見に行ったりしている。職員は、積極的に研修に参加し、認知症ケアについて研鑽しつつ、音楽療法なども取り入れるなどして、利用者の尊厳や権利を尊重し寄り添う支援を実践している。代表者や管理者は、職員との関係も良好に保ち、コミュニケーションを十分に図るよう努めている。年1回、地域の小学校や幼稚園の行事に参加したり、ボランティアの来訪や大学生などの研修生を積極的に受け入れたりして、積極的に交流を進めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で理念や方針、目標を具体的に伝え話し合い、同じ思いで支援できるよう周知している。	朝礼時に、職員間で理念を唱和している。年1回、管理者と職員で理念について話し合い見直している、また、介護理念や具体的な方針を掲げており、職員間で共有しつつ日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	10月に開催される地域の祭りでは子供神輿の慰問。12月には地域子供会との合同クリスマス会を開催。また同法人グループホームの地域交流行事に参加し、地域交流に努めている。	地域の自治会の清掃活動に事業所として参加している。また、事業所で地域の子ども会のクリスマス会を行ったり、認知症介護の講演会を開催したりしている。地域住民が事業所の菜園の水やりをしたり、防災訓練に参加してくれたりしている。中学生の体験学習等も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談を随時受け入れる体制を整えており、認知症者について適切な介護方法や接し方についてを説明を行い啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進委員会を開催している。毎回議題を決めてあらたに意見をもらったりしている。また、職員からの研修報告や事例発表を行い施設の取り組みや方針に理解を頂いている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、地域の代表者、町担当者等の出席を得ている。事業所から事例を報告したり、行事等の情報を交換したりしており、出席者からは助言や意見を得ている。出された意見等は、職員会議等の機会に全職員で話し合うなどして、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初に市町村担当窓口(健康推進課)へ入居状況を報告し、助言やご協力を頂いている。	管理者は、介護保険課や地域包括支援センター担当者に、利用者の状況や事業所の取り組みを報告するなどして助言や情報を得るようにしている。町担当者等から得た助言や意見は、職員間で共有するなどして運営面に反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は現在行っていない。しかし定期的な身体拘束委員会の開催や研修を受講し、正しい理解と身体拘束をしないケアの実践に努めている。	事業所では、職員が身体拘束の内容や弊害を理解することができるよう、研修や勉強会の機会を設けている。全職員が身体拘束の弊害法海に努め、日々のケアに活かしつつ、身体拘束をすること無く自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	セミナー参加やミーティングで話し合い、全職員が共通意識を持つ事で、虐待が見過ごされることのないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、2名が成年後見制度利用。制度についてはセミナー等に参加し、学ぶ機会を設けている。そして、必要な場合には権利擁護に関する制度を活用し、支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等を用い入居時説明の上、同意を得ている。生活面の希望、要望を確認し、事業所としてどのように対応しているのかを説明と理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族に随時、意見や要望を求め運営に反映している。また、ユニット毎に意見箱を設置している。家族会や面会時には意見をゆっくり聞くようにしている。	職員は、日頃の利用者との関わりのなかで、一人ひとりの意向や希望を聞いている。年2回、事業所では家族会を開催しており、本人や家族の話聞くようにしている。また、月1回、電話連絡の機会を設けており、利用者の生活の様子を伝えるなどして、その際に家族の希望や意見等を聞いている。出された意見等は、職員会議で検討し運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時ミーティングの機会を設け、意見や要望を聞き反映している。	管理者は、朝礼時に職員の意見を聞くようにしている。月1回の職員会議でも、職員がケアに関する提案や要望を出しやすいよう雰囲気づくりに努めている。管理者から法人本部に報告し、検討や協議を行うなどして運営面に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や資格取得の努力、研修への参加意欲を処遇に反映させている。年2回のアンケートを代表者が確認することを通じて各職員が向上心を持って働けるような職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルに合わせ、法人内の勉強会及び外部研修、同法人グループホーム合同勉強会など積極的に進め、職員が研修を受け学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修参加や他グループホームの職員とも常時交流を持ち、相互の活動及びサービスについて勉強会を行い、話し合い取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入居者、家族の方と面談し生活状態や不安に思っている事を聴く機会をつくっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談の機会を持ち、ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に面談を行い、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談の中で必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割を持って頂き、共同生活に参加してもらえる場面作りや声かけを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員間で暮らしの様子や出来事などの情報を共有するように努め、家族の方と同じ思いで支援させてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も友人や知人との交流はできているので、引き続き交流ができるように働きかけている。	事業所では、利用者の友人や知人、家族などの来訪を快く受け入れている。その際には、近くの喫茶店に出かけることができるようにしている。また、家族の協力を得るなどして、理・美容院や墓参りなどに出かけており、馴染みの関係を継続することができるよう努めている。電話や手紙などで、利用者と友人、知人間の連絡の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、気の合う入居者同士で楽しく過ごせる時間を作るように職員が心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、通所サービス利用の方はデイサービスの方でお声かけさせて頂き、近況や様子をお伺いし、相談援助している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけを行い、状況把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。	日頃の利用者との関わりの中で、一人ひとりの会話や表情に着目し意向を把握するよう努めている。意志の表出が困難な利用者には、全職員で日々の行動や表情から意向をくみ取ったり、家族に話を聞いたりして、その人らしい暮らしの支援へと繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを通じ、今までの職業や趣味、家族環境等をよく理解し、その人らしい生活で過ごしていただけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に合った過ごし方や役割等、その方の体調や能力を確認しながら実施して頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族の意思を確認し、介護計画に反映している。必要に応じて看護師や理学療法士、作業療法士の意見なども取り入れられている。作成時及び見直しは家族に開示し同意を得ている。	事業所では、センター方式を取り入れ、本人の視点に立った介護計画の作成に努めている。3か月に1回、介護計画を見直している。月1回のモニタリングも行っている。利用者の心身状況や現状に応じた介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ごとに個人のノートを作り、日々の行動、身体状況を記録し、全職員がいつでも確認できるようにしています。また、介護記録をもとに介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族の方の要望、状況に応じて通院付き添いや、送迎など必要な支援は対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域包括支援センターや他グループホームとの意見交換する機会を設け、地域の子供会の慰問や幼稚園のクリスマス会への参加などの機会作りを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	随時対応が可能である体制を確保している。	事業所では、協力医療機関との24時間の連携体制を整備している。家族の協力を得るなどして、眼科や耳鼻科、歯科等の専門科の受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中夜問わず、看護師、連携医療機関との連絡も密に取れる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療と情報を密にし、早期退院に向けて意見交換や相談に努めながら連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の支援説明は職員が仲介し、家族の方と医師が話し合う場を確保している。本人家族等の意見を尊重しつつ、グループホームのできる範囲を説明し、近隣や地域の人達の協力を得てチームで支援する事に取り組んでいる。	契約時の段階で、重度化や終末期の事業所の方針を本人や家族に伝え同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、本人や家族の意向を再確認し、かかりつけ医や関係者間で対応方針の共有を行い、本人や家族の意向に沿うことができるようチームで支援する体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救急救命講習の受講や急変時マニュアルを用い、急変時や事故発生時の初期対応について研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち合いにて、1Fデイと合同で避難訓練を実施している。運営推進委員会でも地域の方の協力をお願いしている。また法人内で防災委員会を立ち上げ、災害の発生に備えての防災意識を高めている。	年2回、事業所では消防署の協力を得て、同一法人の運営する他サービス事業所等と協働し避難訓練を実施している。法人内の防災委員会に参加したり、災害マニュアルや備蓄を整備したりしている。しかし、災害時の地域住民や関係機関との相互応援に関する仕組みづくりや話し合いの機会を設けるまでには至っていない。	今後は、被害想定を定めるなどして実践的な独自の避難訓練を検討したり、相互応援の仕組みを取り入れたりして、地域の福祉拠点として災害時の役割や使命が果たせるよう検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格の尊重を重視し、さりげない言葉かけや対応又、居室の出入りに当たっては入居者のプライバシーに配慮している。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、さりげない声かけや誘導に努めている。居室に入る際には必ずノックや声かけをするなど、一人ひとりのプライバシーに配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中のあらゆる場面において、入居者の好みや意向に応じて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事・レクリエーションへの参加などはその日の入居者の方の体調、気持ち、表情によって柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の個性を大切に身だしなみや、おしゃれが楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の残存能力を活かし、食事の準備や片付けを職員と一緒に楽しく行っている。	事業所では、利用者に嗜好調査を行っており、同一法人内の献立会議で検討している。献立は季節感に配慮し、五感を刺激するものとなるようにしている。職員は、利用者が自身の力量に応じて役割を担うことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は一人ひとりの嗜好物を把握、管理栄養士と相談し、量やバランスを考え楽しんで食べていただけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣やできること、できないことを把握し、個別に必要な働きかけをしている。毎食後の口腔ケア、義歯洗浄または定期的なうがいを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、一人ひとりにあった排泄支援をしている。トイレ誘導、介助にて昼間だけでも、紙パンツやオシメを外せるような支援をしている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、可能な限りトイレで排泄することができるよう支援している。介助の際にはさりげなく声かけを行い、プライバシーを損なうことのないよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄状況を記録している。状況に応じ、日頃より水分を多く摂取してもらったり、食事内容を再検討している。また、適度な運動をしていただく働きかけも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望を確認して入浴して頂いている。また、状況に合わせ清拭に変更したり、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて支援をしている。	事業所では、利用者一人ひとりの希望や心身状況に応じて入浴することができるよう支援している。同性介護を原則とすることで羞恥心や不安感に配慮するとともに、プライバシーの保持を大切にされた入浴支援に努めている。入浴を拒む利用者には、声かけや気分転換を行い、無理強いすることなく入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良く眠れるようになるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。家族の希望に応じ、合間に休息も取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り服用する支援をしている。また、状況の変化に注意し、医師に報告の上、指示を仰いでいる。処方箋のコピーを個人ノートにはさみ、全職員が目を通せるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員主導にならないよう可能な限り、入居者の能力に合わせて洗濯物干しや衣類のたたみ、掃除、炊事や後片付けなどを分担している。気分転換の為、他のグループホームに行き交流を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常に散歩を取り入れたたり、体調に合わせて職員と一緒に買い物・ドライブに出かけるように支援している。また個別で、自宅・お墓参り・外食を家族の協力を得ながら外出の機会を支援している。	事業所では、外出に関する年間計画や月間計画を立てている。利用者一人ひとりの希望に応じて、墓参りや外食、季節の花見、買い物などに出かけている。家族の協力を得るなどして、ともにその人らしい暮らしを支えつつ、生き生きと暮らすことができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できない方は家族の希望もあり、ホームで立替金として、必要な時に手渡し使えるように支援している。買い物の折には自分で支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙や電話を日常的に利用できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間には季節の生花やテレビ・新聞・週刊誌などを用意し、居心地良く生活できるように努めている。	共用空間は明るく、清掃が行き届いている。また、マッサージ機や週間誌も置いてあり、ゆったりと過ごすことができる空間整備を行っている。季節の花や作品を飾り居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間の十分なスペースにテーブル椅子、ソファ、入居者同士で楽しめるスペースを確保している。ユニット同士の交流も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、馴染みのあるものや思い出の品等を配置し、入居者に応じて過ごせる居場所が確保されている。	事業所では、利用者の使い慣れた家具や写真、冷蔵庫などを居室に持ちこんでもらっている。本人や家族、職員間で相談し、安全面に配慮しつつ家具の配置や環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者ごとに検討を行っている。介護ベッドから転落の恐れのある方には、床に布団を敷き、安全に配慮している。また、トイレ前や居室前に看板を設置し、自身で理解できるよう工夫している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
<b>I 理念に基づく運営</b>								
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で理念や方針、目標を具体的に伝え話し合い、同じ思いで支援できるよう周知している。					
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	10月に開催される地域の祭りでは子供神輿の慰問。12月には地域子供会との合同クリスマス会を開催。また同法人グループホームの地域交流行事に参加し、地域交流に努めている。					
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談を随時受け入れる体制を整えており、認知症者について適切な介護方法や接し方についてを説明を行い啓発に努めている。					
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進委員会を開催している。毎回議題を決めてあらたに意見をもらったりしている。また、職員からの研修報告や事例発表を行い施設の取り組みや方針に理解を頂いている。					
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初に市町村担当窓口(健康推進課)へ入居状況を報告し、助言やご協力を頂いている。					
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は現在行っていない。しかし定期的な身体拘束委員会の開催や研修を受講し、正しい理解と身体拘束をしないケアの実践に努めている。					
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	セミナー参加やミーティングで話し合い、全職員が共通意識を持つ事で、虐待が見過ごされることのないように努めている。					

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	実践状況
			実践状況	実践状況	実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、2名が成年後見制度利用。制度についてはセミナー等に参加し、学ぶ機会を設けている。そして、必要な場合には権利擁護に関する制度を活用し、支援できるように努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等を用い入居時説明の上、同意を得ている。生活面の希望、要望を確認し、事業所としてどのように対応しているのかを説明と理解が得られるよう努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族に随時、意見や要望を求め運営に反映している。また、ユニット毎に意見箱を設置している。家族会や面会時には意見をじっくり聞くようにしている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時ミーティングの機会を設け、意見や要望を聞き反映している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や資格取得の努力、研修への参加意欲を処遇に反映させている。年2回のアンケートを代表者が確認することを通じて各職員が向上心を持って働けるような職場環境作りに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルに合わせ、法人内の勉強会及び外部研修、同法人グループホーム合同勉強会など積極的に進め、職員が研修を受け学ぶ機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修参加や他グループホームの職員とも常時交流を持ち、相互の活動及びサービスについて勉強会を行い、話し合い取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入居者、家族の方と面談し生活状態や不安に思っている事を聴く機会をつくっている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談の機会を持ち、ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に面談を行い、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談の中で必要なサービスにつなげるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割を持って頂き、共同生活に参加してもらえる場面作りや声かけを行っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員間で暮らしの様子や出来事などの情報を共有するように努め、家族の方と同じ思いで支援させてもらっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も友人や知人との交流はできているので、引き続き交流ができるように働きかけている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、気の合う入居者同士で楽しく過ごせる時間を作るように職員が心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、通所サービス利用の方はデイサービスの方でお声かけさせて頂き、近況や様子をお伺いし、相談援助している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけを行い、状況把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを通じ、今までの職業や趣味、家族環境等をよく理解し、その人らしい生活で過ごしていただけるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に合った過ごし方や役割等、その方の体調や能力を確認しながら実施して頂いている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族の意思を確認し、介護計画に反映している。必要に応じて看護師や理学療法士、作業療法士の意見なども取り入れられている。作成時及び見直しは家族に開示し同意を得ている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ごとに個人のノートを作り、日々の行動、身体状況を記録し、全職員がいつでも確認できるようにしています。また、介護記録をもとに介護計画の見直しも行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族の方の要望、状況に応じて通院付き添いや、送迎など必要な支援は対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域包括支援センターや他グループホームとの意見交換する機会を設け、地域の子供会の慰問や幼稚園のクリスマス会への参加などの機会作りを支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	随時対応が可能である体制を確保している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中夜問わず、看護師、連携医療機関との連絡も密に取れる体制を確保している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療と情報を密にし、早期退院に向けて意見交換や相談に努めながら連携している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の支援説明は職員が仲介し、家族の方と医師が話し合う場を確保している。本人家族等の意見を尊重しつつ、グループホームでできる範囲を説明し、近隣や地域の人達の協力を得てチームで支援する事に取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救急救命講習の受講や急変時マニュアルを用い、急変時や事故発生時の初期対応について研修を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち合いにて、1Fデイと合同で避難訓練を実施している。運営推進委員会でも地域の方の協力をお願いしている。また法人内で防災委員会を立ち上げ、災害の発生に備えての防災意識を高めている。			

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格の尊重を重視し、さりげない言葉かけや対応又、居室の出入りに当たっては入居者のプライバシーに配慮している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中のあらゆる場面において、入居者の好みや意向に応じて支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事・レクリエーションへの参加などはその日の入居者の方の体調、気持ち、表情によって柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の個性を大切に身だしなみや、おしゃれが楽しめるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の残存能力を活かし、食事の準備や片付けを職員と一緒に楽しく行っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は一人ひとりの嗜好物を把握、管理栄養士と相談し、量やバランスを考え楽しんで食べていただけるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣やできること、できないことを把握し、個別に必要な働きかけをしている。毎食後の口腔ケア、義歯洗浄または定期的なうがいを実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、一人ひとりにあった排泄支援をしている。トイレ誘導、介助にて昼間だけでも、紙パンツやオシメを外せるような支援をしている。					
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄状況を記録している。状況に応じ、日頃より水分を多く摂取してもらったり、食事内容を再検討している。また、適度な運動をしていただく働きかけも行っている。					
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望を確認して入浴して頂いている。また、状況に合わせて清拭に変更したり、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて支援をしている。					
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良く眠れるようになるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。家族の希望に応じ、合間に休息も取り入れている。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り服用する支援をしている。また、状況の変化に注意し、医師に報告の上、指示を仰いでいる。処方箋のコピーを個人ノートにはさみ、全職員が目を通せるようにしている。					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員主導にならないよう可能な限り、入居者の能力に合わせて洗濯物干しや衣類のたたみ、掃除、炊事や後片付けなどを分担している。気分転換の為、他のグループホームに行き交流を図っている。					
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常に散歩を取り入れたり、体調に合わせて職員と一緒に買い物・ドライブに出かけるように支援している。また個別で、自宅・お墓参り・外食を家族の協力を得ながら外出の機会を支援している。					

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		管理できない方は家族の希望もあり、ホームで立替金として、必要な時に手渡し使えるように支援している。買い物の折には自分で支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		入居者が手紙や電話を日常的に利用できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		食堂兼居間には季節の生花やテレビ・新聞・週刊誌などを用意し、居心地良く生活できるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		食堂兼居間の十分なスペースにテーブル椅子、ソファ、入居者同士で楽しめるスペースを確保している。ユニット同士の交流も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		家族の協力を得ながら、馴染みのあるものや思い出の品等を配置し、入居者に応じて過ごせる居場所が確保されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		入居者ごとに検討を行っている。介護ベッドから転落の恐れのある方には、床に布団を敷き、安全に配慮している。また、トイレ前や居室前に看板を設置し、自身で理解できるよう工夫している。		